

日本貿易学会
2026年5月24日(日)

日本のエネルギー貿易におけるチョークポイント リスクの現状と対応策

九州産業大学 商学部 3年
大西 春菜 金澤 亜弥

1

目次

- 1 インTRODクシヨ
- 2 我が国におけるエネルギー需給の現状
- 3 チョークポイント・リスクが我が国に与える影響課題
- 4 我が国のエネルギー安保確保に向けた対応策

2

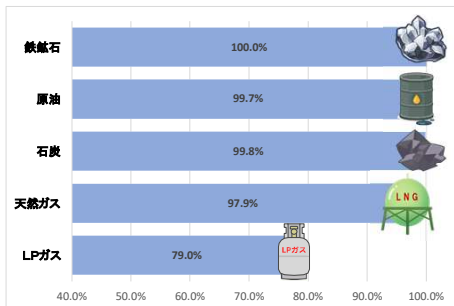
2

イントロダクション①

● 主要エネルギー資源の対外依存率と輸入先

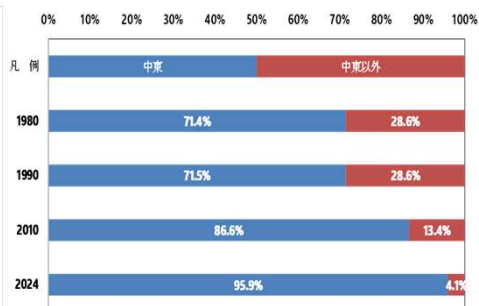
- ・日本は主要エネルギー資源の90%以上を海外に依存している。
- ・そのうち、原油の場合は中東からの比率が1980年の70%程度から2024年には90%以上と一つの地域に依存している。

● 主要エネルギー物資の対外依存率



出所: 日本船主協会(2025)「日本の海運 shipping now2025-2026」より作成。

● 地域別原油の輸入比率の推移



出所: 資源エネルギー庁(各年)「資源・エネルギー統計」より作成。

3

3

イントロダクション②

● 研究の背景と目的

- ・四方を海に囲まれている日本は、原油や石炭などのエネルギー資源が乏しく、多くを海外に依存している。
- ・そのエネルギー資源はほとんどが海上輸送によって運ばれている。
- ・しかし、近年は地政学的リスクや異常現象などにより、エネルギー輸送において重要な海上輸送が阻害される可能性が高まっている。

研究の目的

上記の背景を踏まえ本報告では、エネルギー輸送におけるチョークポイント・リスクが日本のエネルギー安保に与える影響を明らかにし、その対応策を検討した。

4

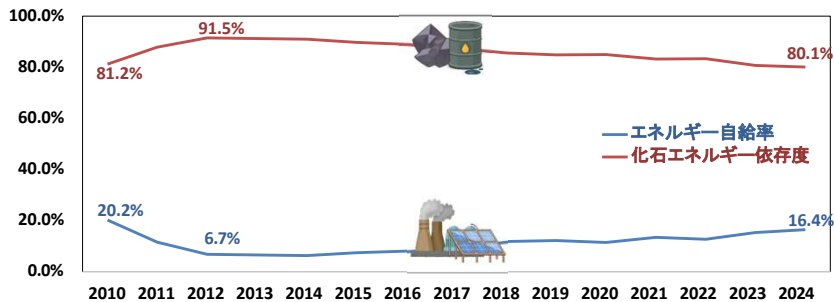
4

我が国におけるエネルギー需給の現状①

● 我が国におけるエネルギー自給率と依存度

- ・日本の**エネルギー自給率**は、2010年に20.2%だったものが2024年には3.8ポイント減の**16.4%**と依然として低い。
- ・一方、**化石エネルギーの依存度**は2010年に81.2%から1.1ポイント減となったものの、依然として**80%以上**を超えている。

● エネルギーの自給率と依存度の推移



出所：経済産業省(2025)「令和6年度(2024年度)エネルギー需給実績(速報)より作成。

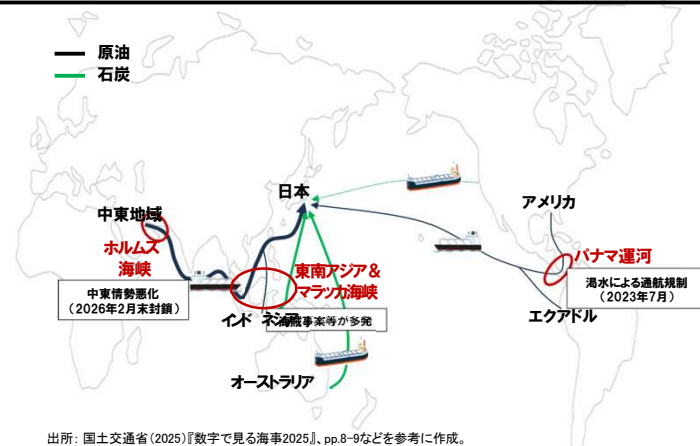
5

5

我が国におけるエネルギー需給の現状②

● 主な化石エネルギーの海上輸送ルート(2023)

- ・日本に輸入される化石エネルギーの輸送ルートには、**3つの要衝が存在しており、その要衝にはリスクが点在している。**



出所：国土交通省(2025)『数字で見る海事2025』、pp.8-9などを参考に作成。

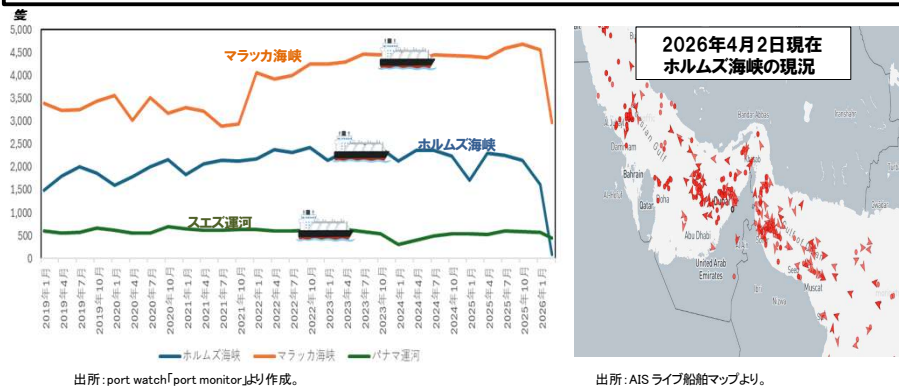
6

6

我が国におけるエネルギー需給の現状③

● 主要チョークポイントにおける船舶通航数の推移

- ・ホルムズ海峡における船舶の通航量は、一進一退を繰り返しながらも**安定した通行量を維持**していたが、2026年2月末に航路が封鎖されたことを受け、2026年3月はほぼゼロとなっている。
- ・こうした状況を受け、もう一つのエネルギー輸入ルートであるマラッカ海峡においても2026年2月末以降、通航量が大幅に減少が見られる。



7

我が国におけるエネルギー需給の現状④

● 各国のチョークポイント比率の推移

	2000 年代	2015年	2023年
英国	12.7	8.5	1.8
米国	48.3	42.5	20.0
フランス	71.8	65.5	49.3
ドイツ	45.0	58.4	39.8
中国	142.5	149.6	131.2
韓国	163.6	175.8	180.8
日本	177.8	167.7	193.3

注: 単位は%である。
出所: 経済産業省(2025)『令和6年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2025)』より。

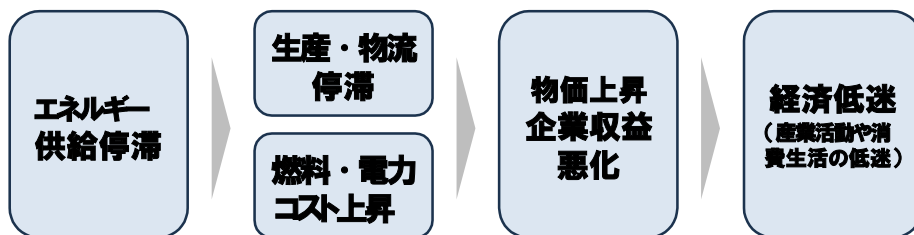
8

8

エネルギー安保の不安定が我が国に与える影響と課題①

● チョークポイント危機が我が国に与える影響

- ・ チョークポイント危機によるエネルギー輸送の不安定は、我が国のエネルギー供給の停滞をもたらし、それはまた**国内の生産や物流コスト**の上昇につながる。
- ・ その結果、**企業収益の悪化**や**生産性の低下**を招き、日本の社会経済の低迷につながる恐れがある。



9

9

エネルギー安保の不安定が我が国に与える影響と課題②

● 我が国におけるエネルギー資源の輸入上の課題

1 化石エネルギーを特定の地域に依存

⇒9割以上を政治情勢が不安定な中東地域に依存しており、その地域は複数のチョークポイントを通航する必要がある。

2 海上輸送のチョークポイント依存度が高い

⇒エネルギー資源を輸入する海上ルート上のチョークポイントには多くのリスクが点在しており、それが封鎖された場合、エネルギー供給が途絶える恐れ。



10

10

我が国のエネルギー安保確保に向けた対応策①

● エネルギーの安定供給に向けた改善案

1 輸入先の多様化による供給リスクの分散

⇒中東地域以外(東南アジアや中南米地域など)からの輸入を増やし、エネルギー資源の供給リスクを分散する必要がある。

2 リスク・マネジメントの徹底化

⇒チョークポイントに対する監視体制の整備や、パイプラインなどの代替輸送手段(ルート)を確保するといったチョークポイントリスクの影響を最小化する体制づくりが必要である。

11

11

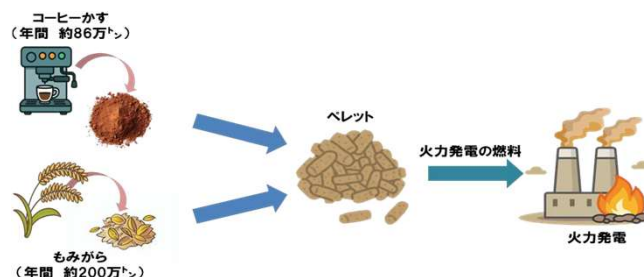
我が国のエネルギー安保確保に向けた対応策②

● エネルギーの安定供給に向けた改善案

3) 国内のエネルギー自給率の向上

⇒エネルギーの海外依存度の高さ故、日本のエネルギー安保はチョークポイントリスクに大きく左右される。

⇒そのリスクを回避し、エネルギー安保を確保する為にエネルギー自給率を向上させることが必要である。



12

12

参考文献

【文献資料】

1. 魏鍾振(2025)「国際海上コンテナ輸送を巡るチョークポイントリスクが東アジア経済に与える影響」『アジア研究』Vol. 71.No.1&2、96-106ページ。
2. 清水裕・中野冠(2018)「チョークポイントリスクを考慮したエネルギーセキュリティ指標」『安全工学』Vol.57 No.3、237-245ページ。

【インターネット資料】

1. Port Watch「port monitor」<https://portwatch.imf.org>(2026年3月18日最終確認)。
2. 経済産業省(2025)「令和6年度(2024年度)エネルギー需給実績(速報)」
https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/pdf/gaiyou2024fysoku.pdf
(2026年2月25日最終確認)。
3. 国土交通省(2025)「数字で見る海事2025」
<https://www.mlit.go.jp/maritime/content/001912016.pdf>
(2026年2月28日最終確認)。
4. 坂本正街(2024)「海上輸送のチョークポイントを巡る複合リスクと世界経済で海運、商品市況。サプライチェーン、インスト、金融政策への影響」丸紅経済研究所、
https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/pdf/gaiyou2024fysoku.pdf
(2026年3月3日最終確認)。
5. 日本海事広報協会編(2025)「日本の海運 SHIPPING NOW 2025-2026」
https://www.kaijipr.or.jp/shipping_now/(2026年3月10日最終確認)。

13

13

ご清聴有難うございます



14